

## ブローチを解読せよ

アメリカのトランプ大統領夫妻が、7月中旬、初めてイギリスのエリザベス女王夫妻を訪問しました。

トランプ大統領の「ミーファースト」な振る舞いは、英国女王に接するときにも変わりません。ウインザーへの到着時刻が大幅に遅れて女王を待たせたり（女王が手元の時計を不安げに確認するほど）、女王の進路を遮って前を歩こうとしたり、あたかも女王の存在を忘れたかのように振る舞ったりと、92歳の英国女王に対する態度としては当然のこと、通常の対人関係レベルで見ても失礼きわまりない行動が続き、ハラハラする場面が少なくありませんでした。

意外と心の中が顔に出る女王は、メラニア夫人、トランプ大統領との記念写真撮影時にも、不愉快そうな表情を浮かべているように見えました。隣に立つ大統領は、歯を見せて笑顔を作り、上着のボタンは相変わらず、トランプ流を貫いて留めないまま。ちなみに、立っている時には

上着のボタンを留めるのが通常のスーツのルールです。

心の中を表情に出すことはあっても、口には出さないのがエリザベス女王です。政治的な発言ができる立場にもありません。そんな女王を敬愛してやまない民は、女王がトランプ大統領と接した3日間につけられたブローチの意味を深読みするごとく、女王が実はトランプ大統領をどのように扱っていたのかを、代弁しようとしていました。

まず、最初の日につけられた緑のクロオーバーのようなブローチ。これはオバマ前大統領夫妻から友情の記念に贈られたものでした。ご存じの通り、トランプ大統領はオバマ前大統領の功績をことごとく否定する政策をとり続けています。

2日目につけられたのは、トランプ大統領と仲の悪いカナダから贈られた雪の結晶型ブローチ。しかも、雪の結晶(Snowflake)は、アメリカでは反トランプ派の人々をほめかします。

そして3日目のブローチとし

て選ばれたのは、女王の母がジョージ6世の葬式の際に着用したことで知られるブローチ。幸福や喜びの対極にある感情を連想させます。

かくしてエリザベス女王は3つのブローチを通して全世界にメッセージを送っていた、という「深読み」はツイッターで即座に共有されました。

深読みしすぎでしょうか？

いえいえ、ウイリアム王子とキヤサリン妃の結婚式にはラブノット型のブローチをつけたり、EU離脱が国民投票で決まった後の国会の開会スピーチでは、EUの旗とそっくりな模様の帽子を着用して登壇したりする女王です。政治的な発言が許される立場にないからこそ、ひとつひとつのアクセサリーにさりげなく意味を含め、誰かに向けてメッセージを発信しているのだと思います。

イギリス女王のファッションアイテムを通したメッセージ解読ゲームに、全世界が「女王陛下のスパイ」気分に参加する。結果、女王の意図は明記されないけれど確実に伝わっていく。女王と人々との間に信頼が横たわるからこそ成り立つウィットに富んだ共犯関係そのものが、なんともスリリングです。ああやはり007の国の女王。

なかの かおり

1962年生まれ、富山市出身。株式会社Kaori Nakano代表取締役。服飾史家・トップイストとして研究・講演・執筆。東京大学大学院修了。

